

『ついに登場！ C型肝炎経口剤治療（治験）』

肝臓川柳 『内服で 夢の治療の チケットに!!』



(この結果が夢へのチケット(治験へ)なるのか)

C型肝炎の新しい治療として、インターフェロンを使用しない経口抗ウイルス剤2剤併用療法が注目されていますが、ついに当院でも9月下旬より★経口2剤療法★の治験が始まりました。

今後少なくとも3～4社で経口2剤関連の治験が始まるようですが、当院では、まず、アボット社の

- C型肝炎1型高ウイルス前回 PEG/RBV 無効患者
- C型肝炎2型高ウイルス前回 PEG/RBV 再燃または無効患者

を対象とした↓↓↓

『NA5A阻害薬(ABT-267)』と

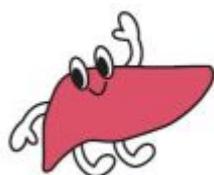
『NS3阻害薬(ABT-450)』(リトナビルというCYP阻害薬(抗ウイルス剤でない併用)の併用投与の治験に参加しています。

副作用は重篤なものはほとんどなく、効果はきわめて高い夢のような治療です。

しかし！！

今後薬剤耐性の問題なども出てくる可能性もあります。

また、実際に使用可能となるのは、3年後くらいかと思われますし、やはり特に発がんリスクの高い、今治療が必要なC型肝炎患者さんは、現在可能な3剤療法を始めとした治療でウイルス駆除や肝炎抑制を行い、肝がん発生阻止を目指すべきだと思います。



これだけ覚えておけば損はない！

今 回 の ポ イ ン ト

インターフェロンを使用しない経口抗ウイルス剤2剤併用療法が注目されていますが、ついに当院でも9月下旬より経口2剤療法の治験が始まりました。副作用は重篤なものはほとんどなく、効果はきわめて高い夢のような治療です。実際に使用可能となるのは、3年後くらいかと思われますし、特に発がんリスクの高い、今治療が必要なC型肝炎患者さんは、現在可能な3剤療法を始めとした治療でウイルス駆除や肝炎抑制を行い、肝がん発生阻止を目指すべきだと思います。

(文 : 福井県肝疾患診療連携拠点病院運営委員会 野ッ俣和夫)